

2018

日本学校改善学会 2018 大会プログラム

The Japan School Improvement Research Association

CHANGE THE SCHOOL.

CHANGE THE WORLD.

By Education and Leadership.

2018 年 1 月 27 日 (土)

松山市教育研修センター, 愛媛県

J-SIRA 

The Japan School Improvement Research Association

愛媛県松山市文京町 3

愛媛大学大学院教育学研究科

日本学校改善学会事務局

089-927-9529

日程

日時：平成30年1月27日(土) 9:00 受付開始

場所：松山市教育研修センター

9:30-11:00 Sessions 1 プレゼンテーション

Division A~D

11:10-12:40 Sessions 2 プレゼンテーション

Division E~H

13:30-16:30 Sessions 3 学校改善と人材育成 特別セミナー

16:40-17:10 日本学校改善学会のビジョン

17:30-19:30 情報交換会(愛媛大学内レストラン HACO)

Sessions 1【9:30-11:00】

Division A 学力向上のためのデータ分析・戦略・実践

会場：小研修室1(2F) 9:30-11:00

司会・討論者：大野裕己(滋賀大学大学院)

地域に信頼される学校づくりに関する研究—A市における学力向上を中心として—/松本浩(兵庫教育大学大学院生)・諏訪英広(兵庫教育大学大学院)・小西哲也(兵庫教育大学大学院)

一点突破—全面展開による学力向上への取組/永原正己(愛媛大学大学院生)

学カデータ分析から見る松山市の学力向上課題/神野泰二(松山市教育研修センター)・露口健司(愛媛大学大学院)

パネルデータからみた教育におけるソーシャル・キャピタル/山下 絢(日本女子大学)・露口健司(愛媛大学大学院)

小規模校における学校経営の在り方/上村悦男(上島町立弓削小学校)

Division B 教職員の職能成長と研修

会場：小研修室2(2F) 9:30-11:00

司会・討論者：倉本哲男(愛知教育大学大学院)

中学校におけるOJTの推進—メンターチームを活用した若手教員の育成—/尾後千恵(愛媛大学大学院生)

高等学校における教員の意欲と達成感/武智義尚(愛媛大学大学院生)

教職員のコンプライアンス意識向上のためのミドルリーダーの役割について—コンプライアンス研修プログラムの開発を通して—/猪野啓士郎(愛媛大学大学院生)

愛媛県における校長及び教員の資質向上に関する指標について/渡邊真介・山岡健二(愛媛県総合教育センター)

Division C 協働性・同僚性を高めるミドル・リーダーシップ

会場：小研修室3(2F) 9:30-11:00

司会・討論者：加藤崇英(茨城大学大学院)

チーム学校におけるマネジメントモデルの開発研究/楠井徳久(愛媛大学大学院生)

ミドルリーダーとしての主幹教諭の抱える課題—インタビューから見えてくるもの—/福原宏(広島市教育センター)

同僚性を高めるミドルリーダーのリーダーシップ/名本雅一(愛媛大学大学院生)

分散型リーダーシップとプロジェクトマネジメントによる学年経営/有賀友美(愛知教育大学大学院生)

キャリア教育を柱とした学校づくりの提案/清澤涼介(静岡大学教職大学院生)

Division D 教職員の働き方改革・生き方改革・学び方改革

会場：中研修室(3F) 9:30-11:00

司会・討論者：川上泰彦(兵庫教育大学大学院)

教師の「幸福度」調査から考える学校改善のポイント/高木亮(就実大学)

教員の幸福度と学校チーム力の関係/井原光明(愛媛大学大学院生) 初任者教員の精神的健康における実証分析/中尾走(広島大学大学院生)・露口健司(愛媛大学大学院)

教師のライフヒストリカル理解に基づいた対話と協働による能力開発マネジメント—ミドル層教員の学級経営のサポートを通して—/石崎耕一郎(愛媛大学大学院生)

教員の業務負担軽減に資する力量の探索—TALIS2013の分析を通じて—/神林寿幸(教職員支援機構)

Sessions 2【11:10-12:40】

Division E 子どもと保護者の幸福度を高める学級経営・学校経営

会場：小研修室1(2F) 11:10-12:40

司会・討論者：相良誠司(福岡市立福岡西陵高等学校)

学校・家庭・地域間ソーシャル・キャピタルと保護者の主観的幸福感/柏木智子(立命館大学)・竹森香以(東京大学大学院生)

先生の「嫌われる」「好かれる」言動が青年期の学校風土と幸福感受維持に与える影響—保育・教職志望大学生にとっての社会関係資本—/花房幹根・村上幸輝・増成悠太・高木亮(就実大学)

子どもの幸福度を高める学級経営の実践的研究/岡本千恵(松山市立和気小学校)

貧困問題を抱える地域における「町づくり」学習の可能性/山田文乃(兵庫教育大学大学院生)・柏木智子(立命館大学)

Division F 学校改善への新たなアプローチ

会場：小研修室2(2F) 11:10-12:40

司会・討論者：伊藤文一(福岡女学院大学)

へき地自治体におけるICTを活用した学習支援の可能性/佐藤福起・日下公貴・高木亮(就実大学)

保育・教職志望大学生の対異性コミュニケーション能力はどのように育まれるのか/磯野遥花・入江佳奈・大西麻友・岡本万柚子・佐竹由衣・増井ゆかり・高木亮(就実大学)

観察を通じた「非認知的スキル」を測定する方法論の検討/村上幸輝・増成悠太・花房幹根・高木亮(就実大学)

子どもの小学校移行に関する保育士の意識—School Readiness論の視点から—/垂見直樹(近畿大学九州短期大学)

Division G 校長・教育長のリーダーシップ

会場：小研修室3 11:10-12:40

司会・討論者：諏訪英広(兵庫教育大学大学院)

校長の学校運営上の課題意識について/大上隆之(広島市教育センター)

目標管理制度の効果認識とリーダーシップ/渡部謙吾(愛媛大学大学院生)

わたしの学校経営—ヤングリーダー育成の実際と課題/清田雄二(中間市立中間南小学校)

今日も働きたい学校/山本浅幸(宇和島市立城東中学校)

新「教育長」の職務に関する事例研究—学校教育の円滑な執行のための方策を中心にして—/梶原正史(兵庫教育大学大学院生)

Division H コミュニティ・スクールの可能性

会場：中研修室(3F) 11:10-12:40

司会・討論者：大林正史(鳴門教育大学大学院)

泉大津市における就学前・小・中一貫教育がめざすもの—新たな一

貫教育校とコミュニティ・スクールの可能性―/富田明德(兵庫教育大学大学院生)・諏訪英広(兵庫教育大学大学院)・小西哲也(兵庫教育大学大学院)

コミュニティ・スクールにおけるソーシャル・キャピタルについての探求的研究/生田淳一(福岡教育大学)・伊藤文一(福岡女学院大学)・入江誠剛(福岡市立堅粕小学校)

ソーシャル・センターとしての学校―その歴史的展開からコミュニティ・スクールを考える―/杉田浩崇(愛媛大学)

学校と地域のネットワーク構築―地域連携担当教職員の役割モデルの構築―/井上武彦(愛媛大学大学院生)

公立小学校における学校運営システムの改善事例に関する考察―福岡県におけるコミュニティ・スクールと二学期制を中心に―/入江誠剛(福岡市立堅粕小学校)

Sessions 3 学校改善と人材育成 特別セミナー

(参加費無料)

会場：大講義室 (3F) 13:30-16:30

司会：城戸茂(愛媛大学大学院)・柏木智子(立命館大学)

Presentation 1 チーム学校

「チーム学校」と学校改善―多職種構成による協働組織の構築と学校業務改善の課題について―/加藤崇英(茨城大学大学院)

Presentation 2 カリキュラムマネジメント

カリキュラムマネジメントと学校改善/倉本哲男(愛知教育大学大学院)

Presentation 3 教員養成改革

教員養成大学・学部改革と学校経営研究(者)のあり方/加治佐哲也(国立高等専門学校機構/前兵庫教育大学学長)

日本学校改善学会のビジョン

会場：大講義室 (3F) 16:40-17:10

プレゼンター/露口健司(愛媛大学大学院)

情報交換会

会場：愛媛大学内レストラン HACO 17:30-19:30

場所：下の地図をご参照ください。松山市教育研修センター前の道路を挟んで向かい側にございます。徒歩1分程度です。

参加費：4000円を予定いたしております。

形態：立食方式です。

参加予定の皆様へ

●Sessions 発表者以外の方は、以下のアドレスまで「大会参加」及び「情報交換会」参加申し込みを電子メールにてお願いいたします。ご氏名とご所属のみでかまいません。様式は自由です。

Jsira2018@gmail.com

●学会年会費及び大会参加費は、当日受付にてお支払いください。学会年会費は4,000円(学生無料・現職院生を含む)、大会参加費は1,000円です(特別セミナーは無料)。

●宿泊手配は、各自でお願い致します。

●当日の昼食は、愛媛大学学生食堂等をご利用ください。

●自由研究発表の時間は15分間です。

●会場には、Windows パソコン、プロジェクター、スクリーンを用意しております。使用される場合は、発表当日、データをUSBメモリに入れてお持ちください。なお、Power Point をお使いの場合、念のためPower Point 97-2003バージョンで保存したデータもご準備ください。使用される方は開始時刻の10分前までに会場に来て動作確認をしてください。

●当日、発表資料を配布予定の方は、不足が生じないよう必要部数(各自50部を目安)をご持参の上、該当会場の係員にお渡しください。資料配布机に置く形で配布させていただきます。発表直前に大会要員が配布するという形ではありませんので、ご注意ください。資料の複写等のご要望には、大会実行委員会としてお応えできません。発表資料等の送付はご遠慮ください。紛失等の事故が生じることがあります。

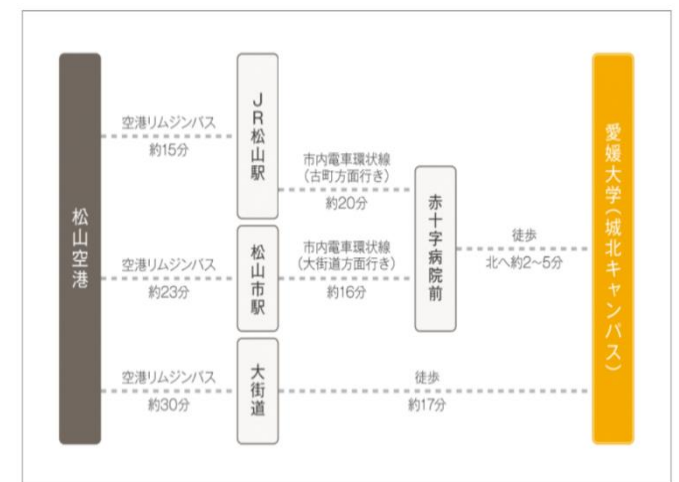
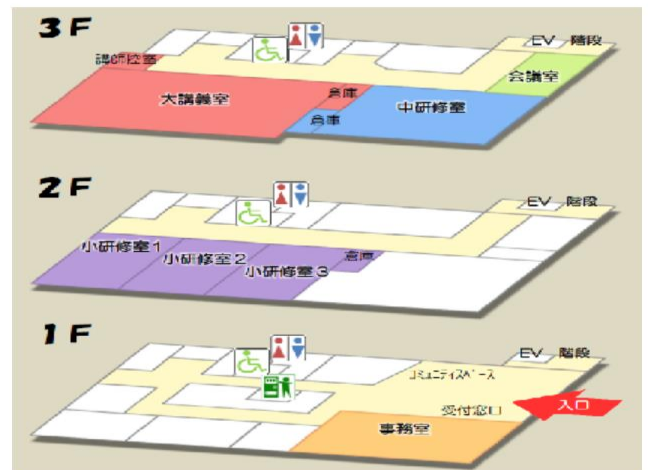
●万一、お申し込みいただいた発表を取り止める場合は、必ず事前に大会実行委員会の下記連絡先(いずれか)までご連絡ください。
Jsira2018@gmail.com

090-7447-5160

●1Fのコミュニティスペースにて図書を販売しております。どうぞお立ち寄りください。

●会場は愛媛大学正門前にあります。愛媛大学までのアクセスをご参照ください。

●松山市教育研修センターには駐車場がございません。公共交通機関にてお越しください。



日本学校改善学会とは

日本学校改善学会とは、日本の学校を善くする方法を、実践研究等の推進を通して学びあう会です。学校改善に関心を持つ研究者・実践者であれば、どなたでも参加できます。

本学会は、科学研究費補助金の共同研究から生まれました。理事メンバーは、いずれも科研費研究の研究図書の執筆者です。科研費研究に基づく研究活動(2016年度創設の日本学校改善研究会)が、ひとつの学問分野を立ち上げるまでに成長したのです。これは、全国的にも大変珍しい事例です。

また、本学会は、いわゆる有識者会議(「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」)の報告書においてもとり上げられる等、今後の教員養成改革において重要な役割を果たすことが期待されています。

日本学校改善学会は、American Educational Research AssociationのDivision A (Organization & Leadership)及びDivision B (Curriculum & Instruction)に類する研究活動を日本において実施することを目指します。研究者とスクリーンリーダーとの研究交流の場として、そして、国内の先端研究推進の場として機能し、日本の研究と実践をリードします。教職大学院、教育委員会、校長会等との連携協働を基盤とする点も、これまでの教育分野の学会にはない特徴です。

学会ビジョン

2018-21の4年間は、学会の基盤形成期として、以下の5事業に取り組みます。

第1は、安定した大会運営です。ポスター、ラウンドテーブル、プレゼンテーションの3パターンを採用し、より多くの発表者を確保し、知の蓄積を促進します。毎年度、対前年度比で50%以上の会員増・参加者増に挑戦します。

第2は、電子ジャーナルの導入です。学会のHP上から研究紀要にアクセスできる方式をとります。研究紀要は、学術研究はもちろん、実践研究や実践報告の自由投稿を積極的に受け付けます。Journal of School Leadership(米国雑誌)には、学校改善関連領域における実践研究が多数掲載されており、実践研究のフォーマット(評価レブリック)を構築する上で大変参考になります。このジャーナルを手がかりにして、日本型の実践研究を促進します。実践者/研究者が執筆する実践研究の質が、大幅に高まることでしょう。

第3は、学校組織を対象とする調査法のテキスト開発です。学校組織を対象とする質的・量的方法論を盛り込んだテキストを、学会主導で開発します。今後、教職大学院の学校管理職養成コース等で、調査法科目の増加が見込まれます。予測し得る近未来に積極的に対応します。

第4は、日本版Ed.D(教職博士)プログラムの開発・運営支援です。Ed.Dプログラムの内容を学会として提案するだけでなく、会員のEd.D取得を推進いたします。そのためには、全国の教職大学院との連携協力が必要不可欠です。本学会の会員から、多数のEd.D取得者を輩出できるように、会員相互で全力サポートしていきます。

第5は、世界トップレベルの研究の推進です。残念ながら、教育学分野ではインパクトファクター付の国際ジャーナルに挑戦する、研究者がほとんどおりません。実践1流、研究3流が実態ではないでしょうか。実践と研究との連携協働を通して、世界のトップレベルに挑戦します。

電子ジャーナル刊行予定

名称：学校改善研究紀要 (Journal of School Improvement)

申込締切：平成30年5月末

提出締切：平成30年6月末

査読形態：指導助言型

制限字数：以下の通り

特集論文/査読無/16,000字程度

学術研究(和文)/査読有/16,000字程度

実践研究(和文)/査読有/16,000字程度

学術・実践研究(英文)/当分の間査読無し/10,000語程度

実践報告/査読無/16,000字程度

研究論文紹介(翻訳)/査読無/16,000字程度

書評/査読無/3,200字程度

紀要編集委員：

委員長 川上泰彦(兵庫教育大学大学院)

委員 大野裕己(滋賀大学大学院), 入江誠剛(福岡市立堅粕小学校), 相良誠司(福岡市立西陵高等学校), その他理事全員

*論文投稿の詳細につきましては、学会HPをご参照ください。

学会役員

理事：生田淳一(福岡教育大学)

伊藤文一(福岡女学院大学)

大林正史(鳴門教育大学大学院)

柏木智子(立命館大学)

川上泰彦(兵庫教育大学大学院)

倉本哲男(愛知教育大学大学院) 副会長

諏訪英広(兵庫教育大学大学院)

高木亮(就実大学)

露口健司(愛媛大学大学院) 会長

増田健太郎(九州大学大学院)

山下絢(日本女子大学)

顧問：加治佐哲也(国立高等専門学校機構/前兵庫教育大学学長)

監事：入江誠剛(福岡市立堅粕小学校)

事務局：高橋葉子(愛媛大学大学院) 事務局長

城戸茂(愛媛大学大学院)

森田桂子(愛媛大学大学院)

小田哲志(愛媛大学大学院)

小田正志(愛媛大学大学院)

学会ロゴ説明

J-SIRA

The Japan School Improvement Research Association

教員の職能成長を6色で表現しました。みずみずしい初任者(水色)。緑が色づき始める5年目(黄緑)。青葉茂る10年目(緑)。果実色づく15年目(黄色)。見事に熟した20年目以降(橙色)。真っ赤に燃える管理職(赤色)。

2018大会キャッチコピー

CHANGE THE SCHOOL.
CHANGE THE WORLD.
By Education and Leadership.

Change the school. Change the world. By Educational and Leadership. スクールのリーダーが学校を変えることで、世の中が変わる。使命の意義と重要性を表現いたしました。

学会ホームページ

平成29年12月に完成予定です。